

○妙見祭

84 九州三大祭りの一つ、
八代妙見祭。
やしろみよけんさい。

○参道の夫妻

85 下永さん夫妻も、
この日ばかりは、
農作業の手を休めて、まず
妙見さんにお参り。

○神社参拝

○お祭りの宴

86 その後、農家仲間を訪ねて、
旧交を深めるというのが
いつもの日程。
下永さんはこうした地域の絆を
とても大切にしているのです。

○畑に苗を植える

87 1月。
畑にイグサの苗を植付ける
下永さん夫妻。
冬、植えたこの苗は
春、青々とした芽を伸ばし、
秋には、本田に植付けられ、
翌年の初夏、刈り取られます。
このように、イグサは、
およそ一年半のサイクルで
時間と手間をかけて
栽培される農作物なのです。

○畳表の出荷風景

下永さん「お客さんとかはこれは工
業製品と思ってもらえるんです
よ、ほとんど畳表ってというのは、でもこれは農業の、農産物
なん

<p>○刈り取り</p> <p>○豊表の出荷風景</p>	<p>ですよね、だから毎年の気候に左右されます。その年によつては短くて収量がないと、雨が少なくて質が落ちたりとか、長くとれないとかですね、毎年同じようなイグサがとれないんですね。同じようなイグサがとれないんですけども、お客さんに提供する豊表は、私たちはなるべく変わらない様に織って、少しでも豊離れがないような豊表をつくらないかんという思いがいっぱいですね」</p>
<p>⑪ エンド</p> <p>○球磨川</p> <p>○S L</p> <p>○八代平野・パン</p> <p>○運転の下永さん</p> <p>○植付け準備の夕景</p>	<p>∞ 球磨川の河口に拓かれた八代平野。 ここでは、室町時代以来、500年以上にわたってイグサが栽培されてきました。</p> <p>∞ 日本独自の文化である豊。豊表の材料であるイグサ。それを守るために、日々力を尽くしている人々が、ここにはいます。</p> <p>06 いま一度、私たちはイグサと豊の文化を見つめ直し、誇るべきその価値を、次世代に受け継いでいきたいものです。</p>